

# ウータン

“森の通信”  
HUTAN

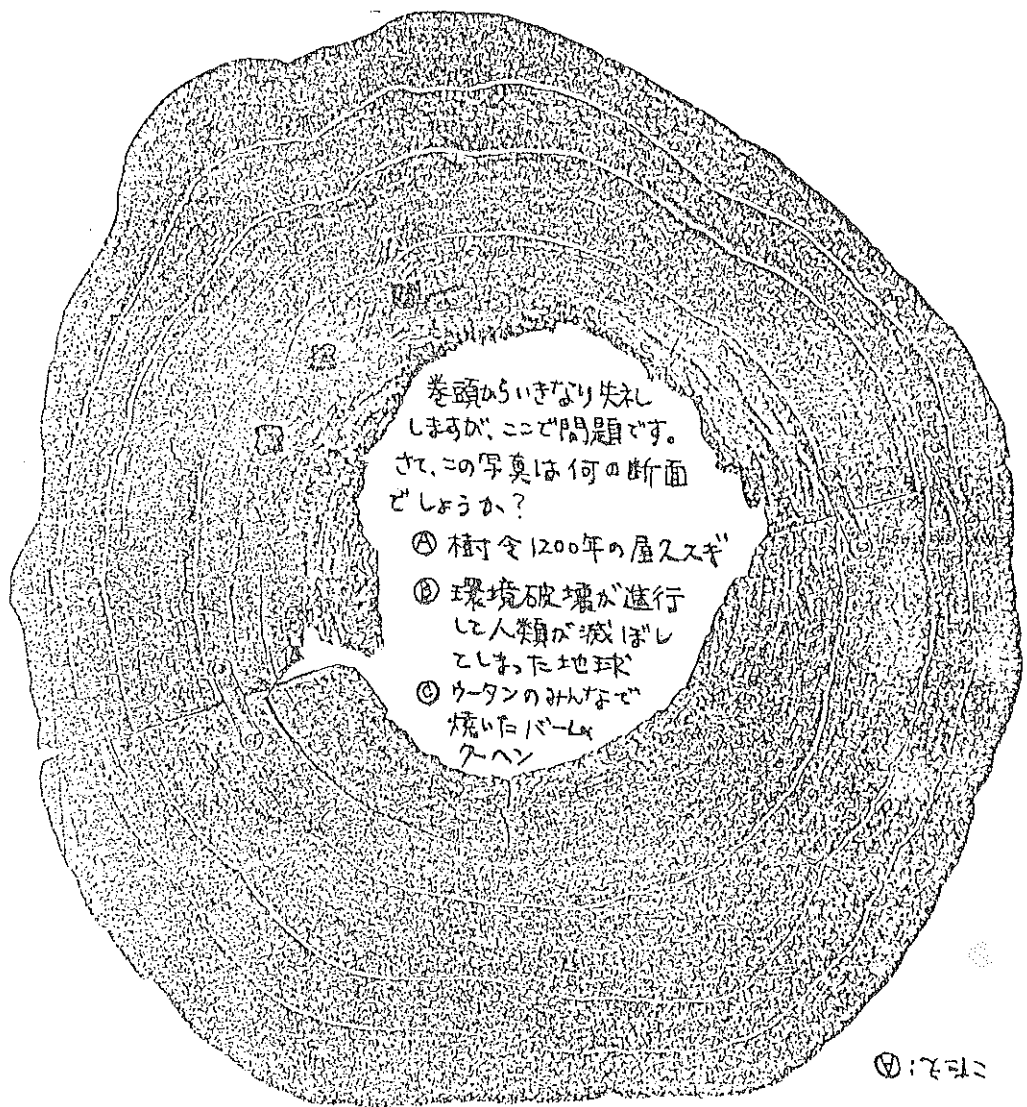
(マレーシア語で森という意)

No. 8 1989.5.29

発行/ ウータン・森と生活を考える会 郵便振替 大阪3-3880

大阪市北区中崎西1-6-36 サクラビル新館308

「自然を返せ！関西市民連合」事務所気付 電 06-372-1561



この国の滞在が長びくにつれて、日本人がどれくらいタイの貧しい人々に嫌われているかが、次第に分かってくるのです。

或る晩の事でした。いつものように一杯三バートのオーリヤン(タイ独特のコーヒー・十五円)を飲んでいると、向い側に座ったタイ人の若者が、くるりと背を向けたままで、飲物が届いてもテーブルの方を振り返りもせずに、コップを片手で握りしめるようにしているのです。思い切つて彼の背中に語りかけました。

「話相手になつて下さいよ。」彼は驚いたようにこちらを向いて、「あなたはタイ語が喋れるのか。」「ほんの少しですけど」とわたしが言うと、それから彼はタイ人特有のダンダンと言う大きな声で、日本人に対して抱いている自分の感情を語ってくれました。

バンコクに来る日本人旅行者は、贅沢なツアーから貧乏旅行者と呼ばれる若者まで、先ずタイ語を絶対話さない、タイ人に向かつて必ず英語で話しかけてくる。日本から来る飛行機の中で、挨拶ぐらいの単語は覚えられる筈だ。この辺で一杯五バート止まりの飲物や、一皿十バートぐらいの飯を食べて、宵の内から深夜まで席を占領して、平気な顔で日本人だけの会話を楽しんでいる。屋台で商売をしているタイ人を馬鹿にしたはなしだ。何時間もたつて喋り飽きると、部屋に帰つて貧しいタイ人が手にすることも無いような高価な服に着替えて、一流ホテルのデイスコに行く。パツポン辺りに行って高級娼婦を漁り歩く。タイ語を話さない日本人は、タイに来てても貧しいタイ人の心を知ろうとしないのだ!!

その青年は遅しくて、並はずれて精悍

な顔をしていました。それもその筈、タイ式ボクシングの選手で九年間リングに上つていて、最盛期にはファイトマネーを一万バート(五万円)も稼いだことがあると誇らしげに語ってくれました。

あなたの訛りはイサーンの出身だと分りますよと言うと、イサーンは貧しいから男の子は皆ボクサーになりましたが、それとも言いました。現在は昼間トラックの運転手で月給が五千バート、夜はジムのコーチをして一日百バート、嫁さんは俺の稼ぎが良いから(合計月収三万円ぐらい)、子ども三人を相手に毎日楽しくやっているよ……。

話の終りになつて家族のことになると、彼の鋭い眼付きが急に優しくなるのでした。三十歳だという青年と別れの握手をしたとき、あつと驚きの声を上げそうになりました。堅くて岩のような掌だけで

# タイから便り

(4)

はた やすのり

はなく、手の甲が見事に盛り上がっていて、九年間のボクサー生活を物語っているかのようでした。

彼の拳は嘗てのリングの相手だけではなく、金持ちニッポンの驕り高ぶった心に向けられていたのではないのでしょうか。

僕のような貧しい暮らしをしていても日本人である事には変わりはない訳ですから、気楽に話しかけてくれるタイ人の何人かが多いだけに、彼の印象は夜風のように爽やかでした。

四月のある日、ウータンウータンの編集部から原稿の催促がありました。前回の報告は八八年十一月下旬に南部タイで起こった大水害に対するマスコミの在り方を批判して送りましたから、今度は自分の眼で確かめて見ようというささやかな決心をして、五か月間住み馴れたバンコクを後にして南米目指すことにしました。日本から送ってもらった朝日新聞のスクラップと、こちらで他人事のように見てい

たテレビの記憶だけが頼りで、言葉も不十分だし、何しろ生れて初めての土地へ行くのですから、四月二七日にバンコクを離れる時は心細い限りでした。スラータアニーを中心とする幾つもの県の被害しかも五か月も経った現在、ジャーナリストでもない無力の私が現地でのコネも無いのに水害跡のレポが書けるだろうか、不安ばかりの旅立ちでした。

バンコクを出て三日目の夜、思案ばかりでは先に進まないと思い、ファヒンという町からロットウアーと呼ばれる夜行バスに乗って一気にスラアースラアー（この人はスラアー・タニー等とは言わない）へと決めました。

夜明けになってバスが急に激しく揺れ出したのです。タイ人たちが「まだ道路が直つたらん」と、寝惚けまなこをこすりながら言うのです。どの辺だろう。五か月も経っているのに……。暗くて外が見えないもどかしさと、早くも大水害の片鱗を五か月目でも視えたという驚きで、眠気がいつぱんに吹き飛んでしまいまし

た。

スラアーの町はすっかり綺麗になつていて、大水害の面影はありませんでした。誰一人として知人のいないこの町で、人々が五か月も以前の思い出したくもない話を聞きだそうというのが、無理だとは分かっている、ウータンウータンの事を考えながら諦め切れぬ思いで、暑い町中を当てどもなく歩いてみました。

タビー川に出てみました。サムイ島行の船が出る直前で賑わっていて活気がありました。が、なかなか洪水の跡らしきものが見当りません。遠い所まで来てしまったのにと、思わず愚痴が出そうになった時、船着場の四〇五〇メートルほど下流に巨大なコンクリートの塊りが、横倒しになって水面から姿を現わしているのが目に止まりました。その辺りには大きな杭のような物が薙ぎ倒されたように、ぼつんぼつんと立っていたので、川岸にあった船着場の残骸だったので、と想像がつかまりました。

それにしても洪水の力は恐ろしいものだ、あらためて杭の間に横倒しになったままの大きな塊げを見つめていました。ひとめでマレーシア系のタイ人と分る青年が、声をかけてくれました。「何を  
見ているのだ。」私が「これは何だったのだ」と返ねると、「洪水の前までは船着場の待合室だったんだ。」と答が返ってきました。

大きすぎて流されずにいたのでしよう。五か月前の恐怖を語りかけてくれているようにも見えました。

「洪水で一番被害の有った場所を教えてください。」

「それはナア・サンと言って、このスラアーから百メートル位のところだ。」

「いまでも被害の様子が見られるか。」  
「それは分らない。でも日本人が何故行きたがるのだ。あの地は共産ゲリラも多いし、どうしても行くのなら、途中も危ないから早朝と夕方は避けた方か良い。カメラは絶対人目つかないように持って行け。」

プレエチャ青年には、その時お礼を言  
って別れて、ホテルへ飛んで帰るなり、  
地図と首っ引きで自己流の計画を夜遅く  
まで練り直すのでした。

国道を避けて裏街道のような山添いを  
走るコースを決めました。勿論ナア・サ  
ンを目指す外はないと祈るような気持ち  
でした。  
より

五月一日の早朝に、ローカル・バスの  
ターミナルへ行つて、地図のコースを示  
しながらナア・サンを通過するバスを探  
していました。

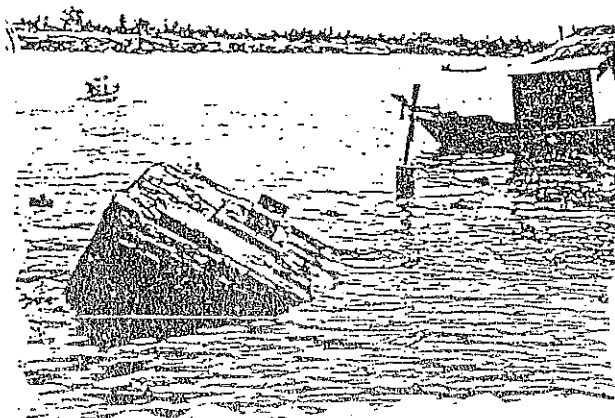
ふと私の前に人が立ち塞がったのです。  
プレエチャ君でした。

「やっぱり会えた。心配だから来た。  
ぼくが連れて行つてあげる。バイクの所  
へ行こう。」

スラアーを出たバイクは、南部にして  
は珍しい山道を走り抜けます。高原のよ  
うな沿道は植林でしたが、ゴムの木、ヤ  
シ、マンゴー、ジャックフルーツがぶら  
下がっているのも見えました。どこまで  
行つても果てしがないと思われるくらい

緑ゆたかな森が続くのでした。南タイは、  
北部と比較して豊かだと言われるのが良  
く分る様な気がしました。

何十メートルか走つて、道は下り坂が  
続くようになりました。しばらくしてプレ  
エチャ君が自分の胸を押さえて、ここ  
だここだ、というゼスチャーをしながら  
バイクを飛ばすのです。この辺は洪水の



時に、人間の胸のあたりまで浸水したというのです。小さな川を通過するたびに「良く見ろ」と言います。はつきりはしないのですが、川岸が潰れてしまっています。押し流されて来た大木が、乾いた泥を被ったままで、そこかしこに転がっています。

一度、イクを止めてもらって、二、三本の大木が固まって倒れているのをカメラに収めました。そこを出て五分も走らない内に彼が、「あそこだ」と叫びました。それはまるで樹木の墓場でした。息を呑むというのか、声にはならないものが、どつと胸の中を通り過ぎて行きました。

痛ましい風景でした。何本とも数えきれないくらい、上流から押し流されて来た樹木が、南園の暑い日射しに長い間晒されて、泥水がかちかちにこびりついて横たわっています。少しは片付けられたのか、ところどころ山積みになされているみたいなのが、いつぞう惨めに見えました。

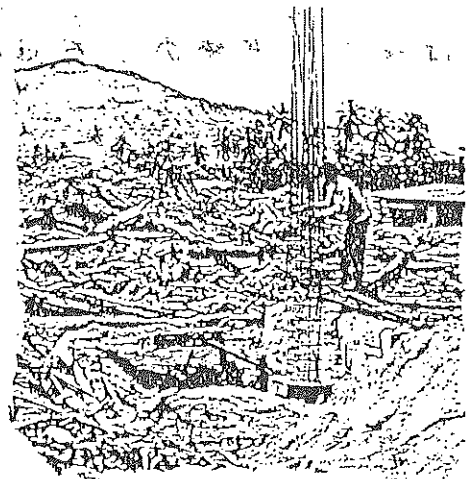
ここはタピ川の名も無い支流マンミヤ川に架るマンナエ橋です。二〇メートルほどの川幅をまたいだ橋は何処へ流されたのか？ 新しい橋も未完のままです。鋼鉄のアンクルを組み合わせた仮橋の上をのろのろと車が行き交っています。

カメラのシャッターを押すのに気をとられて、大変なことを忘れていました。洪水で亡くなられた多くの人たちの事です。何でも犠牲者は、三千人とも四千人とも伝えられていると聞きました。

駅前の二、三軒ほどある商店街に行きました。半年程たった今でも家々には、人間の肩ぐらゐの高さまで水に浸っていた跡が、はつきり残っていました。

盛しくて親切なブレエチャと思わぬ事で、口論になってしまいました。私が川の上流の大量伐採を見たいと言った時です。

「そこは共産ゲリラが出没するので危険。道路には地雷が仕掛けてある。」  
「そんな事ではだまされなさいぞ。日本



の蘭社や悪徳役人がデマを流して、人を寄せつけないようにして、大盤に伐採したのが洪水の原因に成ったのだ。ぜひ見たい。」

「遅くなると、ナア・サンからスラーへ帰ることも危ないのだ。」  
「ここまで連れて来てくれた人の言うことに従うほかは、心を残しながらマンミヤ川に別れを告げたのでした。」

八九年五月一日  
スラータニーのホテルにて

# 崩れてゆく秘境・アマゾン(1)

《雨に浸ったアマゾン開発》

西園 良夫

「九年前、一九八〇年四月の終りに大きな洪水があったんだ。上流でも、このマラバ市でも豪雨が降り続いた。トカンチス川とイタカイユスス川が溢れて、マラバ市のシダージ・ノーボ(新市街)は低くなっているの、高さ四メートル以上になった。もちろん家々が浸り、約五千世帯が被害にあった。水位がゆっくり上がったので、人々は何とか逃げられたが、いっと、髭をたくわえたトカンチス・ホテル管理人のワシントン氏は、浸った家々を指さす。

当時の洪水は、鉄筋コンクリートの家なら三階までの高さだが、平屋はすっぽり呑み込まれてしまったらしい。曰が落ちた今では、薄暗がりのもともあつては

っきり分らない。家々からは何もなかったかのように明りが灯っている。

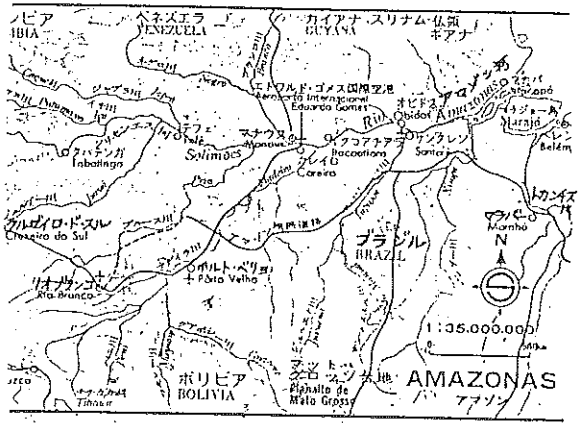
四月二十五日、ワシントン氏の車でレストランへ行つて食事を終えた後、雲に蔽われた空から雨が急に降りだした。スゴールだとワシントン氏は言うが、雨量がだんだん多くなつて、車のフロントガラスから先は全く見えない。止むなく近くのがソリンスタンドに車をとめる。車やその他の文明の力が入つてきているが、ここはやっぱりアマゾンなのだ。

飛行機がリオ・デ・ジャネイロからひとっ飛びして、約三時間弱で一気に首都ブラジリアに着く。坂と海岸の街のリオと違い、草原の遙か向こうに多くの住宅

が建っているブラジリア。空港からは幅二〇キロ位の広大な道路を、タクシーは百キロ近いスピードでぶっ飛ばす。

動物園で飼われているゴブラが、夜にこの道路へ出てくることもあるんだ。と、運転手はにやにや笑う。何とも大胆で明るい人間や動物たち。

ナシヨナル、曰立、IBMなど多国籍企業の看板がこの地にも並び、超近代的な大統領府、最高裁、そして政府を支える建築物の群れが、切り拓かれたジャングルの中に忽然と聳え立つ。一九六〇年当時の大統領ジビニエッキがこの地を首都に決めて、アマゾン開発の拠点とするまでは、三つのインディオ部族が住んでいたのみだと言ふ。



昔に溯れば、この広大なアマゾンには、自然の中に生きるインディオと生き物の累々たる棲み家だった。ところが、一六世紀にポルトガル人がこのブラジルを「発見」してから、次々とインディオの土地へ分け入っていった。

ブラジル北東部の森林を切り倒して製糖業を始めた者たちは、ヨーロッパで砂糖の需要が増えるにつれ、製糖業を大きくしていった。急激な製糖業の発達によって労働者が不足したので、ポルトガル人はアフリカの黒人を輸入して労働力と

していく。その労働力—奴隷として売られてきた黒人は一六世紀後半より毎年約四〇万人、一八八八年まで三五〇万人ものぼると言われる。さうして砂糖キビ畑、農園、奴隷の住居、製糖用の燃料となる森林が一体となったエンジエニョは栄えて、ブラジル海岸部全体へと拡がっていった。

一方、牧場主にもなれなかつた者たちは、バンデイラ（探検隊）として内陸部へ入り、インディオを薙い奴隷にしていく。今のミナス・ジェラス州を始め、各地で金鉱が見つかったからだ。

一九二二年、ブラジルがポルトガルより独立した後、主にアタセンテイロ（大牧場主）が黒人を、バンデイラがインディオを奴隷とする奪つ側と奪られる側の関係は強まっていく。それはバインズ州や各地で奴隷達が蜂起したが、鎮圧された事件のように。

転機が訪れた。それは政州の各植民地でも製糖業がなかり、ブラジルの地位が下がったため、サンパウロ周辺でコーヒ

ーを栽培し始めた。一部の牧場主などがコーヒーを作り、奴隷税の三分の一の費用を白々の移民事業へと転用する。これが成功して、折から奴隷解放にむけての国際世論も高まっていたため、ブラジルはやっと一八八五年に奴隷制を解いた。

しかし、政州の経済に従属されたブラジル経済の破綻は早くもやって来た。一九二九年の世界大恐慌—輸入規制を行う政州によって、コーヒー豆は暴落してゆく。大統領のツルルルはブラジル経済を立て直すために、内陸部と北東部の開発と、国産工業化等を政策の柱とする。

「今日まで行われてきたことは、農業であろうと全て経験に頼った金儲けで、今後は合理的な開発へ転換しねばならない。アマゾンの地において、自然が我々に差しのべている天然資源は、人間の手によって管理され培われる必要がある。アマゾニアの開発協力を臍心をよせているアメリカ実業家が、すでに到着するところになっている。」

一九四二年にアマゾン開発銀行、リオ

ドーセ社を設立し、翌年にブラジル中央開墾財団を作り、ブラジル政府は四五年にアマゾン開墾計画を憲法によって制定する。一九五八年にブラジリアからベレンへ到る国道(BR-153)の建設を始める。アマゾンの開墾はさらに進んでいった。

フビシエッキ大統領以降、開墾最優先の思想が貫徹され、「五〇年の進歩を五年で」「経済発展こそ民族自立の条件」として、ブラジル中央政府、アマゾンへと文明が侵襲していった。一九七〇年、北東部のノルデスチ地方の大旱拔もあり、大統領のメジジはトランス・アマゾニカ(アマゾン横断道路)の建設を発表。

「横断道路は、北東部の住民が人口の少ないこのアマゾンの広大な荒れ地に入植し、これまでになかった潜在力を利用することを可能にする道路になるだろう。一九七五年までに、政府は道路建設や農村の開拓、鉱山開墾、水力発電所と港湾建設に百億ドルを使うであろう」とメジジは表明した。

この七〇年十月に、熱帯林に被われたインディオが住んでいた所へ、政府は全長五五〇kmにも至る道路の建設を開始した。同年に設けられたブラジル入植・農地改革院の指導のもとに、道路沿いに六マイル毎に約六〇家族の村の建設と、二〇マイル以内に農村都市を作り、商工業と牧畜業の発展をめざし、一九八〇年までに五百万人を入植させる計画であった。

計画を実行するために、アメリカからは一九六四年から七一年に三五億ドル、六八年から七二年には世界銀行、米州開発銀行より四億ドルの融資を受けたブラジル。エスは、トカンチス川沿いの町、エステレイトからマラバ、アルタミラ、ポルト・ベリョ、そしてペルー国境のワルゼイロ・ド・スルまで約三〇〇km。七〇年から二年間で約七万台のブルトラクターが、熱帯林に風穴を開けてゆく。人を阻みつけてきたジャングルを燃やし、時にはダイナマイトやナパーム弾、枯葉剤なども使用されたという。ワルゼイロ

・ド・スルまで七五年に完成するが、余りの難工事で現在もペルーまで至っていない。

合衆国以上の面積をもつ巨大なアマゾン。この横断道路や国道三六四号線、一五三号線が出来て、さらに多くの道路がアマゾンに出来た。熱帯林の土壌は酸があって初めて森林が守られるのだが、一度大規模な破壊を受ければどり返しつかないほど崩れてゆく。土壌の養分層も薄く、鉄分やボーキサイトを含むアマゾンでは農業が不向きだ。それにもかかわらず、横断道路は造られた。現在の入植者は、当初計画した人口の五分の一にも満たない。

地球の三分の一の森をたくわえるアマゾンは、この地球に五分の一の水と、酸素をもたらしているという。もし、アマゾンの森が全て破壊されてしまったのなら、二酸化炭素は六分の一近く増え、その上に地球の温暖化も進んで気象が変化してしまうと、学者達も指摘している。





以前から読もうと思って、そのまま  
になっていた「炎熱商人」を、読書会  
のおかげでやっと読むことが出来た。  
木材輸入商社に就職して間もない頃に  
買収求めたので、一年近く放つておい  
たことになる。最近、私の「積ん読グ  
ループ」はますますびどくなる一方だ。

「炎熱商人」は、フィリピンからラ  
ワン材を輸入する仕事に情熱をかける  
日本人商社マンを主人公にした小説。  
時代は一九七〇年前後。日本では万国  
博覧会が開かれて高度成長を謳歌し、  
フィリピンではマルコスが「革新的」  
な大統領として登場したところである。  
フィリピンの森林資源は、少しかげり  
がみえたもの。まだまだ豊かで、日本  
建築ブームのためにラワン材の貿易は

絶頂期を迎えていた。

何人かの主人公の中でも特に印象的  
なのは、鴻田貿易マニラ支店長の小寺  
だ。自分の赴任したフィリピンの風土  
とそこに住む人々を愛し、商売で儲け  
るだけでなく何かフィリピンのために  
したいと願っている。仕事はできるが  
決して傲慢にならず、日本人もフィリ  
ピン人も分け隔てなくつきあう。こん  
な上司がいたら、私ももっと熱心に仕  
事をするのになあ、と読みながら何度  
も思った。彼と対照的に描かれている  
のが、ラワン材貿易のために本社木材  
部からマニラ支店に赴任して来る鶴井  
である。決して悪人ではないのだが、  
すぐにエリート風を吹かじ、商売でも  
ハッタリをかませ独断で事を進める。

私のまわりを見わたしても、鶴井タイ  
プはおおいが、小寺のような人は滅多  
にいない。

フィリピンのために何かをしたいと  
いう小寺の願いは、厳しい現実と企業  
の論理の中で押しつぶされていく。ミ  
ンダナオ島の木材置場で、貧しいフィ  
リピン人の少年に昼食を食せさせボー  
ルペンを与える小寺の姿を見て、鴻田  
貿易、現地社員のフランク佐藤は、少  
年時代の憧れの存在・馬場大尉のこと  
を思い出す。馬場大尉も、「大東亜共  
栄圏」の理想を信じて日本人とフィリ  
ピン人を分け隔てなく扱い、「美しい  
日本人」として生きようとした。しか  
し、戦争の現実の中で馬場大尉の理想  
はもろくも崩れていく。それと同じよ  
うに、小寺も自らの願いとは裏はらに  
本社にラワン材の安値を押しつけられ  
たことがもとで、商売上のトラブルに  
巻き込まれ、悲劇的な結末を迎える。

木材貿易や商社の実態は非常に正確

## 「炎熱商人」を読んで

〜ウータン読書会〜

塚本風太

に描かれているし、様々な登場人物もそれぞれの思いがよく伝わってくる。久しぶりに読みごたえのある小説だ。ただ、私のように仕事で第三世界と関わっている者にとっては、この結末はかなり重たい。

読書会では、作者・深田祐介氏が「炎熱商人」で言いたかったことは何かということが話題になった。私は、理想を信じフィリピンとの繋がりを求めながらも、企業の論理や戦争の現実との板ばさみとなり、悲劇的な結末を迎えるしかなかった男たちの姿を描きたかったと思うのだ。一方、田中さんは、「エコノミック・アニマルと呼ばれる商社マンや、アジア各地で虐殺を行った帝国軍人の中にも、小寺や馬場のようなり美しい日本人がいた。だから日本人をバカにするなどというのが深田氏が本場に言いたかったことだ」と言う。みなさんは、どう思われるだろうか。

さて、「炎熱商人」の時代から現在まで、二〇年近くが経過した。その間、紆余曲折はあったもの、日本は世界で最も富める国になり、フィリピンはむしろ「貧しさ」を増した。あれほど豊かだったフィリピンの森林は伐り尽され、今ではハゲ山が大部分を占める。そのため国土は荒廃し、洪水などの原因になっている。フィリピン政府は、八六年の原木輸出禁止に続き、今年七月から製材品も輸出禁止にする。もはや手遅れという感じがするが、何もしないでいるよりはましだ。これからは残された森を守りながら、伐採され荒廃した森をどうやって再生するかが大きな課題となるだろう。技術的な問題は専門家に委せるしかないが、竹下首相が約束した熱帯林保護のための援助が、実際にどのようなに使われるのか、監視していく必要があるだろう。フィリピンをはじめとするアジア、

第三世界の国々と日本の経済格差は、少数の例外を除けばますます開く一方だ。円高ニッポンをめざして、たくさんのお稼ぎ労働者がやってくる。かたや、日本の企業はコストの安いアジア諸国にどんどん生産拠点を移していく。フィリピンのために何か役に立ちたいと願った小寺が、積極的に進めていたのがミンダナオ島に、セメント工場を建てるプロジェクトだった。小寺の純粋な気持ちに疑いはないが、この工場は本当にミンダナオの人々に幸せをもたらしただろうか。

労働強化、環境汚染、地元の中小企業への圧迫、日本人社員と現地人社員の摩擦等々。日本企業の工場の海外進出は、様々な問題を含んでいる。企業を通して日本人がアジアなどの人々と接する機会もますます増えていく。小寺のように現地の人々と人間らしくつきあひ、その土地のために何か役に立ちたいと思っても、企業の論理との板ばさみになってしまふことが多い。ど

# 紙すきネーチャンの一日



① 先ず牛乳パックの  
ビニールをはきいて  
中のパルプをけとる。



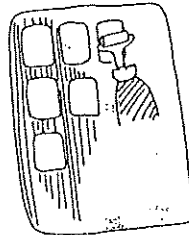
② パルプを  
ミキサーにひける。



③ 水槽にためる。



④ ひらいてすきすき。



⑤ ローター  
はり柄にはる。



⑥ 折り紙の時に  
はり柄のはきいて  
アイロンをひけて、  
ゆがてあびる。

## 牛乳パック再生ハガキは

## こうに作られています

"紙すきハガキ"で  
あがった  
お入用の場合は、  
紙すきの家まで

### 紙すきの家より

企業論の論理に疑問を持つことから始めよう。そんな人が増えていけば、世の中少しは変わるんじゃないかと、楽天的に考えている今日この頃である。

前頁より 続く

うすればいいのだろうか。

小寺は企業論の論理の犠牲になった。私たちは、もつとしたたかに企業論の論理を越えていく必要がある。仕事は人

紙すきの家  
〒100 東京都千代田区千代田  
1-1-1 紙すきの家

生活の中から森を考える シリーズ(5)

熱帯林の出口みつけた。

米田佐知子

前回七号にて紹介しました柴田さんの  
お便りにお応えして一つの方法をご紹介します。

「牛乳パック編」

ゴールドデンウィークに九州、水俣へ行って来ました。水俣浮浪雲工房という所で紙漉きをやったのですが紙を漉くってゆったりとした時間を贅沢に使っていて最高でした。紙が木から作られているのを常識として知ってはいいたものの、本当に分かっていたわけではなかったようです。身の回りの紙の白さを漂白と思わず、当然に受けとめていたので自分の漉いた紙が自然色だったのは非常に印象的でした。そうなると身の回りの紙の白さは異常に見えてきてしまう。「牛乳パックはマニラ麻から作られているんです。ラミネートを使いさえすれば、上質バルブを使う事はありません。極端に言えば新聞紙でもいいわけです。この紙の無駄使い、

考え直さなくてはなりませんね。」浮浪雲工房の金刺さんは話してくれました。ぜいたくな牛乳パックを受け入れてしまってはならないけれどとりあえず、自分達の身の回りの熱帯林の出口を無駄にしないために「紙作り」です。

紙作りもなかなか大変ですよ。そこで、大阪市内に障害を持つ人達が牛乳パックから紙を作っている種彦福雄法大(種彦福雄法大)の活動場所があります。そこへ使い終わった牛乳パックを送りませんか。

★どのようなにして…

- ① 飲み終わったらすぐ水で洗います。
- ② 切り開いて水を切って下さい。

(中に水が残っていると腐って使えなくなります。)

③ 〒554 大阪市生野区田島1-1-10

「カトリック児童館」宛て

に送って下さい。

★また紙すきの家では

毎週火曜日午後11:00~3:00

紙すき教室も行っています。

ポランティアも募集しています。

★その他 問い合わせは

生野地域活動協議会

(06-731-6363)まで

牛乳パックはできるだけ捨てずに

有効利用しましょう。

# ★トピックス〜次々と計画される経済侵略

今年二月にタイ政府は、森林の商業伐採を禁止。フィリピンでも製材

## 森林破壊 水位低下 農業被害

### 「開港」問う環境訴訟

#### パルプ工場と国を相手

インドネシア



「ジャカルタ土百」破産特殊債。世界最大の天然林輸出国のインドネシアで、パルプ・繊維産業工場が原料の木材採取のため近隣の森林破壊を繰り返している。流域川の水質汚染や水位低下などの農業被害を巻き起こしている。環境保護団体が操業停止を訴える。訴訟は「開港」のほかに、伐採許可した投資助成金と工業、林業、人口、環境の三大臣と地元の大企業と、州知事らも被告にし、開港そのものの是非も問う。開港で初の本格的な環境訴訟、公害裁判となっている。

「開港」されたのは北スマタラの、系が変化して、川の水位が低下したと主張する。そして、米どころの同地域でかんがい用水が得られなくなる農業被害が出たなど指摘。これらはいずれも各被告が八一年の環境法に違反し、定められた環境影響評価を行わなかった結果であると主張している。

問題は、政府側はパルプ工場に独特の技術がある、河川汚染の原因とされる工場排水は、二百五十万の森林を破壊、伐採



問題の工場近くの伐採現場(破産特殊債発行先)

敷地の人道館に白っぽく、水質汚染の被害も深刻と、近の月サハ川に流れ出し、近の魚が死んだ。敗北流のサハ川でも九月から十月にかけて死魚多数目撃されている。現在、人道館は改修中だが、汚染の垂れ流しは続いている。

一方、開港は周辺に十万人の森林を所有、原料の供給地としている。わずかの間に伐採され、工場機械のゴミはタイヤ跡だけがまなましく残る。環境被害を免せている。

開港は開港後、一億七千五百万の人口を養うために開港路網をひた走っている。環境破壊の悪影響も深刻と、近の月サハ川に流れ出し、近の魚が死んだ。敗北流のサハ川でも九月から十月にかけて死魚多数目撃されている。現在、人道館は改修中だが、汚染の垂れ流しは続いている。

一方、開港は周辺に十万人の森林を所有、原料の供給地としている。わずかの間に伐採され、工場機械のゴミはタイヤ跡だけがまなましく残る。環境被害を免せている。

これまでインドネシアで政府の環境政策に正面叩きで風を喝するものは、まだ、先進国一方の森林伐採などに対する受け身の立場を取らざるを得なかった。しかし、地帯的な環境保護の動きが、あちこち民間団体などの運動を活性化させ始めた。国内でダムによる水質汚染地の住民の反対運動を全国に引き広げようとしている。

品輸出を原則禁止にこの七月から行う。アジアの森を切り尽し、今後はブラジルから行おうとしている。(左表のカラジャス計画)

経団連等で「国際協力プロジェクト推進会社」を設け、また新たな経済侵略が始まる。所管資金は4兆円というもの。(文責・曲岡)

(うち所要資金1,000億円以上のもの:単位億円)		
中国	海南島インフラ開発計画	22,500
アルゼンチン	ヤシレタ水力発電	9,125
ブラジル	ウジマール(マランバオ製鉄所)	3,750
ブラジル	通商網整備	3,225
中国	アルミ精製計画	3,125
トルコ	アンカラ・イスタンブール新幹線	2,500
ブラジル	リオ石油化学基地新設	2,500
数	太平洋電力化支援基金設立計画	2,500
ブラジル	ツパロン製鉄所拡張計画	1,875
タイ	バンコク高鉄道建設	1,800
ブラジル	カラジャス林産物開発計画	1,625
ベネズエラ	コムシグア鉄鋼計画	1,625
ナイジェリア	石油化学計画(第2次)	1,480
トルコ	イスタンブール世界貿易センター	1,000

# お便りから……



(Q) カンパした金品は、どのようにして支授されるのですか。また、前回のカンパでどのくらい集まり、どうなったのか。『署名したらどうなるの』

前回の署名集めの時に受けた質問です。僕にも分からないことだったので困りました。割りばしの話をする、割りばしの材料はカナダだから、別では？と言われましたが……。

—— 守口市 S・H

(A) 昨年七月から行ってきました「マレーシア・サラワク州の熱帯林と先住民の人権を守るための要請書」の署名活動へのカンパは、十二月までに九三九四〇円集まりました。そのうち五万円は、J.A.T.A.Nの黒田氏がサラワク州に渡られた時に手渡してもらいました。ブナン族などサラワクの先住民が多数逮捕されましたが、それを不当と訴

える裁判が行われています。そのための活動資金が必要なのです。ペナンにある消費者協会という団体がその裁判に協力しています。昨年末に郵送で二万円、消費者協会あてに送っています。また、カンパしていただいたお金で署名用紙の印刷や郵送も行っています。「署名カンパ」と明記していないお金は、当会のためのカンパとして使わせていただいています。この場をかりて、厚くお礼申し上げます。

当会のお金は、例えば東京や海外から集会の講演のためにおこしいただいた方へ謝礼・カンパとしてお渡ししたり、通信の発送、印刷費として使わせていただいたりしております。

〇〇のカンパとしていただく時には、用途を明記していただければ助かります。カンパなのか、会費なのかもわからないお金もあるからです。

なお会費は年千円。現在いただいている会費は、今年五月までです。

「署名したらどうなるのか」という問合せは、どれだけの効果があるのかははっきり言って分かりませんが、今回の場合、日本政府及び木材業界に対する要請でしたから、日本の世論から圧力をかけるのが目的でした。しかし、署名活動というのは、ただ名前ばかり集めても強い世論は生まれません。従ってより多くの人にこの問題を知ってもらう、また当会としても立場をはっきりさせ、他の団体と協力して一つの問題に取り組むという活動の一つです。集会を催して呼びかけるよりも、多くの方々に知ってもらうことができ、かつ、署名集めをする人が署名する人に対面しながら、訴えるわけですからインパクトも大きい訳です。

割りばしに関することは、次回もう少し紙面をとって紹介したいと思います。乞ご期待。

(文責・牛島美成子)

# ウータンからのお知らせ

## ●アマゾンの熱帯林は今…

（帰国報告）

日時 6月11日(日) 午後1時〜5時

場所 部落解放センター（JR芦原橋駅）

内容 アマゾンの熱帯林、鉱山開発、

牧場、そして道路建設、エネルギー政策を問う。スライドで

話し手 伊藤修、西岡良夫

アマゾンのベレンに住む伊藤修

さんが帰国し、現在のインディ

オの状態やアマゾン開発につい

て話します。

## ●南港貯木場見学会

日時 7月1日(土) 午後1時〜

集合 ニュートラム南港口

南洋材貯木場の見学

## ◎「タイからの便り」報告

日時 7月14日 午後7時〜

自然連合事務所（予定）

話し手 はた やすのり

# 編集後記

■ 四月八日、東京で「進出企業問題を

考える会」の集りがあった。午前中に日

弁連環境部会で一緒だったJATANの

黒田さん、それから松井やよりさんも参

加。そして進出企業のAREの報告は小

島弁護士。みな頑張ってるなあ。

「三菱化成の合弁企業が放射線廃棄物

を野積みしたままのため、周辺住民は放

射能被害を受けている。日本企業は謝罪

すらない」と小島弁護士が指摘

アマゾンで砂金採りの際に使う水銀の

処理施設すらない。その上、押し寄せる

ハイテク企業群。熱帯林伐採だけでなく、

アマゾン川の汚染も気がかりだ。（西岡）

■ 中国で、韓国で、若者達の動きがめ

ざましい。日本もリクルートでもっと掘

れても良いはずなのに…。若者はどう

したんだ？、…と、お叱りの声をよく

耳にする。しかし、自分達の生活の中で

じっくり構えて、息長く続けて行く運動もまた大切ではなからうか。

ウータンも取りあえず、十年間続ける

ことを目指します。

（ふうた）

■ 「ハアマイチー」―探しても見つ

からないでは済まない。と、六

ヶ月も住み馴れたバンコクの宿を後にし

た時の心細かったこと。幸運にも偶然の

出会いと言え、八八年末の南タイの大

洪水の中心地でめぐり会ったプレチャ

青年には感謝です。凄まじかった水害の

後は、六ヶ月たった今も、はっきりし過

ぎるくらいその痕跡を留めていました。

不明であった犠牲者の方達の「冥福を祈

るばかりです。

（はた やすのり）

